

平成28年度

# 橋梁技術発表会及び講演会

参加費無料  
定員 **350**名  
申込先着順

平成28年

日時 **10/21** (金) 13:00~16:50

## 会場 ドーンセンター

(大阪府立男女共同参画・青少年センター7Fホール)  
〒540-0008 大阪市中央区大手前1-3-49  
Tel.06-6910-8500

13:00~13:10

### 開会の辞

一般社団法人 日本橋梁建設協会  
会長 石井 孝

13:10~13:25

### 橋建協報告

『熊本地震に対する橋建協  
一斉点検調査』報告 熊本地震調査WG

## 第1部:技術発表会

13:25~14:05

### 1.ここまで進んだ鋼床版の疲労対策

～垂直補剛材上端部と架設用吊金具ももう大丈夫～  
床版小委員会 鋼床版部会 奥村 学

14:05~14:15

### 休憩

14:15~14:55

### 2.重防食塗装の耐候性に関する変遷

～塗料の専門家(賛助会員)が語る～  
製作小委員会 防食部会  
宮下 剛(賛助会員:大日本塗料(株))

14:55~15:35

### 3.ここがポイント! 保全工事の設計・積算

～設計・積算[施工]の観点から特殊な保全工事を紹介～  
保全委員会 保全第2部会 道下 誠司

15:35~15:45

### 休憩

## 第2部:特別講演会

15:45~16:45

### ドボクの見方と見られ方

～橋梁デザインに現れる地域文化～

千葉工業大学 工学部  
デザイン科学科 准教授  
八馬 智



16:45~16:50

### 閉会の辞

橋梁技術発表会 実行委員会  
委員長 上原 正

#### 申込方法

- ①Fax. 06-6535-5086 (裏面の用紙に記載)
- ②ホームページ(URL) <http://www.jasbc.or.jp/> の「技術発表会申し込み受け」まで (受付は平成28年9月9日~10月7日)

#### 申込期限

平成28年10月7日(金)

#### 連絡先

一般社団法人 日本橋梁建設協会 近畿事務所  
〒550-0005 大阪市西区西本町1-8-2 三晃ビル5階  
Tel. 06-6533-3238

#### 継続教育

CPDS認定予定

- ※東京地区は 10月14日(金) 銀座プロッサムホール  
中部地区は 10月28日(金) 東建ホール  
北海道地区は 11月 2日(水) 北海道経済センター  
東北地区は 11月11日(金) 仙台国際センター  
九州地区は 11月18日(金) レソラNTT夢天神ホール 開催です。  
(6地区開催ですが、発表テーマは異なります)  
申し込み等詳細はホームページでご確認願います。

技術発表会(第1部)の発表原稿(論文、PPT)は、当日配布をしておりません。ホームページに掲載しますので、各自ダウンロードして持参して下さい。

#### アクセス



- 京阪「天満橋」駅下車。東口方面の改札から地下通路を通過して1番出口より東へ約350m。
- 地下鉄谷町線「天満橋」駅下車。1番出口より東へ約350m。
- JR東西線「大阪城北詰」駅下車。2番出口より土佐堀通り沿いに西へ約550m。

## 1 ここまで進んだ鋼床版の疲労対策

～垂直補剛材上端部と架設用吊金具ももう大丈夫～

現在問題となっている鋼床版の疲労損傷は、道路橋に疲労設計が適用される以前に設計・施工されたものが殆どである。今の鋼床版は最新の知見に基づき対策が施され、疲労耐久性が大幅に向上している。そこで、過去の疲労損傷事例と対策を整理、再考し、そこから更なる疲労対策を提案する。

現行基準は、大型車輪荷重が常時載荷される位置直下に主桁ウェブを配置しないことでデッキプレートと垂直補剛材溶接部の疲労対策としているが、それを実施できない場合も少なくない。その対策として垂直補剛材上端部をカットする構造を提案する。また、板厚12mmのデッキプレートに存置された架設用吊金具溶接部にき裂が見つかった事例があるが、板厚16mmでは問題とならない可能性があり、架設用吊金具の使用後の処置方法について提案する。

## 2 重防食塗装の耐候性に関する変遷

～塗料の専門家(賛助会員)が語る～

鋼道路橋塗装防食便覧に重防食塗装系が規定されて10年が経過する。防食下地と高い耐候性を有した上塗り塗料の組み合わせで構成されるこの重防食塗装は、近年、道路橋のみならず腐食の厳しい塩害地区の電力設備の煙突や貯蔵石油設備のタンクなど様々な鋼構造物塗装の基本となっている。今回は、重防食塗装系に関する性能評価結果やメリットに加え、今後期待される機能について紹介する。

## 3 ここがポイント！ 保全工事の設計・積算

～設計・積算[施工]の観点から特殊な保全工事を紹介～

大規模更新事業が高速道路会社や都市高速道路会社などで検討されており、今後本格的な事業開始を迎えることが予想される。しかし、これまでに大規模更新(修繕)工事の事例は少なく、施工した会社では設計や施工(主に積算)において苦労しながら進めてきたことが予想される。

そこで、本年の保全委員会での発表は、大規模修繕工事に参考となり得る過去に行った規模の大きな補修・補強工事を振り返り、「概要」と「発注者および建設コンサルタントが計画する際の設計・施工(積算)における留意点」に着目した発表を行うことで、大規模修繕工事の適切な計画と鋼橋保全事業の円滑な推進に寄与したい。

## 特別講演会 講演者紹介

## ドボクの見方と見られ方 - 橋梁デザインに現れる地域文化 -

## 八馬 智

千葉工業大学 工学部  
デザイン科学科 准教授

## —略歴—

1993年 千葉大学工学部工業意匠学科卒業  
1995年 千葉大学大学院工学研究科工業意匠学専攻 修士課程修了  
1995年 株式会社ドーコン(旧・北海道開発コンサルタント)勤務  
2004年 千葉大学大学院工学研究科デザイン科学専攻 助教  
2008年 千葉大学大学院自然科学研究科人間環境デザイン科学専攻  
博士課程修了  
2010年 アイントホーフェン工科大学(オランダ) 客員研究員  
2012年 千葉工業大学工学部デザイン科学科 准教授  
現在に至る

1969年千葉県生まれ。千葉工業大学 創造工学部 デザイン科学科 准教授。景観デザインに関する研究、地域づくりに関する研究、産業観光(インフラツーリズム)に関する研究などを行っている。千葉大学において工業デザインを学ぶ過程で土木構造物の魅力に目覚め、札幌の建設コンサルタントに勤務。橋梁のデザインなどに従事しながら、土木業界にデザインの価値を埋め込もうと奮闘した。その後、大学教員に転身してデザインの教育研究に従事し、2012年より現職。著書『ヨーロッパのドボクを見に行こう』(自由国  
民社、2015)。

## 講演概要

このところ、インフラが生み出す眺めを「風景」として認識する動きが顕在化してきている。その眺めには、圧倒的なダイナミズムや機能優先の造形などの表層にある面白さだけでなく、時代背景や地域社会の影響が色濃く反映されていることから、ツーリズムの対象にもなりつつある。ここでは、ヨーロッパの橋梁デザインを中心とする数多くの事例写真を紹介することで、土木技術者が生み出す風景をあらためて意識化するためのヒントを提示する。

FAX番号:06-6535-5086

平成28年度

10月21日(金)

橋梁技術発表会

[大阪地区]

参加申込書

所 属

団体名

所属

氏 名

役職

氏名

住 所

〒

電話番号

FAX番号

E-mail

前回参加の有無 有 ・ 無